



## 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価 と今後の取り組みの方向性（専門部会報告）

1	農業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	林業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	水産業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4	商工業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5	観光部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	5

## 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（農業部会報告）

### 1. 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価

#### 【主な意見】

- 1) 地元と協働した企業の農業参入の推進について
  - ・企業がスムーズに農業に参入していくためには、企業が進出してくることへの地域が抱く不安感の払拭が必要であり、行政や農業委員会などが連携して地域へ情報を伝えるなど取り組んでいく必要がある。
- 2) 規模に応じた販路開拓、販売体制の強化について
  - ・高知県は園芸連という他県にはない素晴らしい流通システムを持っている。JA高知県に機能が移管されたが、今後さらにこの仕組みを強化してほしい。
  - ・卸売市場法の改正により、今後は各産地から販売先へ荷物を直送できるようになるため、産地から販売先への輸送システムの構築に向けて研究を進めてほしい。

### 2. 今後の取り組みの方向性について

平成31年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下の意見・要望等が出された。

#### 【主な意見】

- 1) 中山間地域の農業を支える仕組みの再構築について
  - ・地域を支え、農地を守っていくためには、集落営農や中山間農業複合経営拠点の取り組みを拡大させていくことが重要。
  - ・集落営農組織などが地域と連携して農地を守っていくという考え方は重要であり、今後もこうした考え方のもとで取り組みを進めてほしい。
- 2) 集出荷施設の再編統合等による集出荷体制の強化について
  - ・集出荷施設の再編・統合については、県からの助言等を得ながら、着実に進めていきたい。
- 3) 労働力の確保対策について
  - ・次世代団地など大規模の農業施設が地域にできると、そちらに労働力が流れがちになってしまい、規模の小さい個人農家の労働力確保が難しくなるということ懸念も念頭に入れて、取り組みを進めてほしい。

## 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（林業部会報告）

### 1. 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、前向きに対応しており概ね計画どおり進捗していると評価。

#### 【主な意見】

#### 1) 加工体制の強化

・県内の製材工場は、今後、役物が減少していくと見込まれることから、一般材（A材）で生きていくことを考えていかなければならないのではないかと。

⇒現状では役物だけでやっていくのは非常に厳しい。これからは一般材も出せるように、中小の製材工場が共同で出荷できる体制づくりにも取り組んでいきたい。また、非住宅建築物では、強度の確かな製品を使っていかなければならないので、小規模な製材工場において、共同により JAS 材を出荷する取り組みを業界と一緒に進めていきたい。

#### 2) 木材需要の拡大

・木造住宅が減少する中で土佐材を多く販売していくためには、非住宅の内装用をやっていかなければならないのではないかと。

⇒マンションなどの内装に木を使うことは、県としても進めていかなければならないと考えている。県内にはすばらしい材料があるので、そうした材料を生かしながら、商品開発を進めていく必要がある。特に、非住宅の壁、床や机、椅子などの木製品といったものについて、需要先と一緒に商品開発するのも一つの方法ではないかと考えている。

### 2. 今後の取り組みの方向性について

平成31年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

#### 【主な意見】

#### 1) 原木生産のさらなる拡大

・10 tトラック道の整備の強化について、木材増産のために林業専用道はもちろん必要だが、長い将来を見据えて、しっかりと高規格の林道も確保していただきたい。

・新たな森林管理システムについて、一番の懸念は森林所有者が分からなくなっていることであり、先行して林地台帳の整備を進めていくことが大事である。

・再造林の推進について、スギ、ヒノキ以外のコウヨウザンといった成長が早く、萌芽更新する樹種にも取り組んでいただきたい。

#### 2) 担い手の育成・確保

・新規就業者の定着を考えた時に、既存事業体の意識の改革・変革が必要だと感じている。既存の事業体の職員に対し、林業大学の短期課程での再教育や労働安全に関する新たな取り組みなどの周知をお願いしたい。

・林業大学の卒業生を採用しているが、チェーンソーを渡せば切ってもらえるし、安全の知識を持っているなど非常にありがたく、林業大学の充実強化をこれからも進めてもらいたい。

・担い手不足は全産業になってきており、これからは他産業とも競合することとなるため、魅力ある事業体になっていかなければいけない。

## 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（水産業部会報告）

### 1. 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価。

#### 【主な意見】

- 1) 市場対応力のある産地加工体制の確立
  - ・宿毛市では大規模な水産加工施設の整備が進められているため、加工場から出る残渣を活用し、さらに価値を創出することはできないか。
  - ・残渣の活用については、成分分析を行うことで、肥料以外にも濃縮エキス等の活用も有効と考える。

### 2. 今後の取り組みの方向性について

平成31年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

#### 【主な意見】

- 1) 漁業生産の構造改革
  - ・マグロやブリの人工種苗生産については、マグロやブリの養殖用種苗の採捕を生業としている漁業者がいるため、これら漁業者の経営を圧迫しないように事業を進めてほしい。
  - ・定置網漁業への企業誘致については、定置網が再開することで漁村の活性化が期待できる。漁村と企業の共存共栄が図れるよう取組を進めてほしい。
  - ・イワシ活餌の安定供給は待ちに待った良い取組であり、県外船等による本県へのカツオの水揚げの増加を期待したい。
  - ・イワシ活餌の安定供給と併せ、スマート市場の整備が進むことで近隣の産地市場にも県外船によるカツオの水揚げが期待できると考える。
- 2) 担い手の育成・確保
  - ・漁業就業支援センターは良い取組と考える。外国人労働者の受け入れについても検討をお願いしたい。
  - ・外国人労働者の国の支援策について具体的な内容は示されていないのか。
- 3) 流通・販売の強化
  - ・輸出の補助事業の対象を「養殖魚」から「養殖魚を中心とする水産物」に広げるとの説明があったが、どのような内容か。
- 4) 活力ある漁村づくり
  - ・遊漁船業の振興は良いことであるが、一部の漁業者には遊漁船業に対する抵抗感があるため、慎重に取り組むことが必要と考える。

## 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（商工業部会報告）

### 1. 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価。

#### 【主な意見】

- 1) 防災関連産業の振興
  - ・被災時にどんな製品が必要であったのかをリスト化し、企業の製品開発や販売促進に繋げてほしい。
- 2) 地域商業の活性化
  - ・商店街の振興計画策定の取組は、他県と比べ積極的だと感じている。また、商店街での通行量データの把握など、IT技術の活用を進めていきたいので協力をしてほしい。
- 3) 円滑な事業承継と人材確保への支援
  - ・中核人材の確保については、デュアラーと呼ばれるように都心と地方の2拠点を生活するような働き方も視野に入れることが必要ではないか。

### 2. 今後の取り組みの方向性について

平成31年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

#### 【主な意見】

- 1) Society5.0の実現に向けたIT・コンテンツ産業の集積
  - ・IT・コンテンツ関連企業を県外から誘致するだけでなく、県内企業に新事業としてIT事業に取り組んでもらう方法もあるのではないか。
  - ・高校生や、更に早い段階から、ITの教育を進める必要がある。高校を卒業する頃にはプログラミングが一定分かっているレベルを目指してほしい。
- 2) 県行政のあらゆる分野におけるSociety5.0関連のニーズ抽出
  - ・各部局が主体的に行うニーズ抽出やプロジェクト管理の進捗状況を総括的に取りまとめ、県全体の取組みとして情報発信していくことが重要。
- 3) 働き方改革の推進
  - ・U・Iターンや人材の県内定着のために、もっとワーク・ライフ・バランスを推進していくことが必要。ワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度において「有給100%取得」「残業ゼロ」など実績に応じた上位版の認証制度を検討してほしい。
- 4) 土佐和紙総合戦略の実施
  - ・土佐和紙については、年々生産量が減っているため、戦略に基づき、スピード感を持って取り組むことが重要。
- 5) キャッシュレス化普及促進
  - ・キャッシュレス化については諸外国では相当進んでおり、キャッシュレス化を普及するには、メリットなどについて、事業主の理解を深めることが必要。
- 6) 大学生の県内就職支援
  - ・県内企業のインターンシップ情報や県内企業の就職情報をどんどん出してほしい。

## 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価と 今後の取り組みの方向性（観光部会報告）

### 1. 第3期産業振興計画 ver. 3の取り組みに対する評価について

事務局から今年度の進捗状況について説明を受け、概ね計画どおり進捗していると評価。

#### 【主な意見】

#### 1) リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～の取り組みについて

- ・キャンペーンの実施にあたり、中期的な視点で中山間地域と観光の事業モデルを示した上で、地域で事業化を考えていくことが必要ではないか。
- ・自然&体験キャンペーンで多くの商品があることは分かったが、国内でも海外でも、周遊コースやモデルコースなど、セット商品としてセールスに取り組んでいただきたい。
- ・具体的な事業が始まった際に、県、市町村、観光協会、広域観光組織での情報共有が大事になってくる。

#### 2) インバウンド対策について

- ・インバウンド対策を進めていく上で、在日の外国人アドバイザーを配置したり、プロジェクトマネージャーを県に配置するのは有効であると感じる。

### 2. 今後の取り組みの方向性について

平成31年度の改定のポイントについては、原案どおり了承。また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のような意見・要望等が出された。

#### 【主な意見】

#### 1) 観光施策の戦略について

- ・観光施策について各市町村のまち・ひと・しごと総合戦略の中に具体的な取り組みを反映させ、県と市町村との戦略をすり合わせて進めることが必要である。

#### 2) インバウンド対策について

- ・インバウンド対策を進めていく上で、高知県の自然、食、異文化体験を組み合わせたアドベンチャーツーリズムとして周遊観光に取り組むべきである。

#### 3) その他提案など

- ・四国内で連携を取ることはもちろんだが、四国だけでなく、関西や山陰、山陽など他の地域とダイレクトにつながって戦略を立てることも有効ではないか。
- ・ボランティアで外国人観光客向けのガイド活動や多言語化支援を行っている高知おせっかい協会への視察やガイドの問い合わせが増えており、外国人を含む個人旅行者にガイドなどを通じた地域の人との触れあいを求めるニーズが増えていると感じている。